

環境経営レポート

(2024 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日)



®環境省

エコアクション21

認証番号 0002469

2025 年 3 月 1 日

株式会社 共栄社マナベ

1. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

環境理念

株式会社共栄社マナベは、ロジスティック事業と地球環境保全を両立し、豊かで美しい自然に恵まれた兵庫県神戸市に根ざす企業として、事業活動の全般に渡り、技術的、経済的に可能な範囲で積極的かつ持続的に環境へ配慮した企業活動を目指します。

基本方針

1. 企業活動全般に関わる環境保全の継続的改革及び環境汚染の未然防止に努め、企業の社会的責任を遂行します。
2. 企業活動全般が環境に与える影響を常に認識し、環境に関連する法規制、協定、その他の要求事項を遵守し、環境汚染の予防を推進します。
3. 従業員一人ひとりの環境保全意識を高め、下記の事項を環境活動重点テーマとして取り組みます。
 - ① 車両燃料の節減による二酸化炭素排出量の削減
 - ② 使用電力量の削減
 - ③ グリーン購入の推進
 - ④ 廃棄物の排出抑制を目指し、事務用紙類の使用量削減等リサイクルの推進
 - ⑤ 企業活動に伴う公害発生の防止、水使用量の削減等作業環境改善の推進
 - ⑥ 自らが、提供するサービスに関し、環境負荷低減に努めます
4. この環境方針達成のため、環境目的、目標を設定し、従業員に周知し社内一体となった環境保全活動の推進に努めます。
5. この環境経営方針は、全従業員に周知徹底する。

社内外に広くコミュニケーションを図り、必要な情報を開示します。

制定 2007年10月1日

改定 2024年 4月1日

株式会社 共栄社マナベ
代表取締役社長 新田 茂

2.組 織 概 要

(1) 事業所名及び代表者名

株式会社 共栄社マナベ
代表取締役社長 新田 茂

(2) 本社所在地

〒652-0861
兵庫県神戸市兵庫区三石通3丁目1番1号

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

本 社：環境管理責任者 Tel 078-671-0080 Fax 078-671-0307

(4) 事業の概要

造船及び建設機械部品等の運搬
一般貨物自動車運送事業 大陸第2238号
貨物利用運送事業 兵第824号
とび・土工工事業 般28-101230
労働者派遣事業 派28-300237

(5) 事業の規模

活動規模	単位	2022 年	2023 年	2024 年
総輸送量	t	56674	49306	51215
売上高	万円	34285	29697	30759
従業員	人	27	27	27
床面積	m ²	50	50	50
車輛	台	16	16	16

※ 事業年は1月～12月、床面積は本社のみ

(6) 法人設立年月日

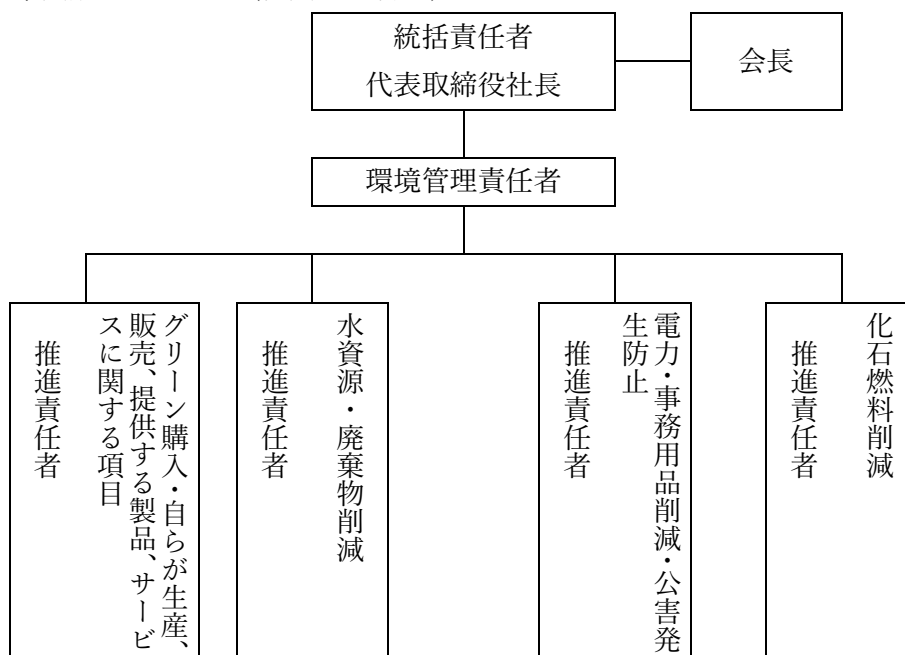
1966 年（昭和41） 8月12日 【創業1905年（明治38） 4月1日】

(7) 資本金

1,000 万円

(8) 組織図

- ・ 本社 所在地：神戸市兵庫区三石通 3-1-1
従業員数 ：27 人（役員 3 人含む）



	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表者 (社長)	①代表者として環境経営全般に関して責任と権限をもつ ②環境経営方針を策定し、従業員に周知させる ③環境経営目標、環境経営レポートを承認する ④資源（人・もの・金）の用意をする ⑤エコアクション 21 全体の取組状況に関し評価、見直し・指示を実施する
環境管理責任者	①エコアクション 21 ガイドラインの要求事項を満たす環境 経営システムを構築し、実行し、環境面の実績を向上させる ②EA21 文書類の承認をする（環境経営レポートを除く）
環境管理担当者	①EA21 環境経営システムを構築し、文書化し、実行を推進する ②環境への負荷の自己チェックを実施する ③環境への取組の自己チェックを実施する ④環境管理責任者を補佐し、問題点の審議と解決策を立案する
推進責任者	①自部門の環境目標、環境活動計画の達成と実績の把握を行う ②環境方針、自部門の環境目標、環境活動計画を部門全員に周知する ③自部門に関連する環境関連法規制等を順守する ④自部門の教育・訓練を実施する ⑤社内外の環境情報の収集と伝達をする ⑥自部門の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する

3. 対象範囲

(1) 認証・登録範囲

対象事業所：本 社 （但し対象範囲には神戸方面地区・明石方面地区を含む）

活 動：造船及び建設機械部品等の運搬

(2) レポートの対象期間及び発行日

2024 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日

2025 年 3 月 1 日発行

4. 環境経営目標とその実績

(1) CO₂排出量の削減

CO ₂ 排出量	単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度
目標	kg-CO ₂	79,200 (△1%)	65,000 (基準年)	64,350 (△1%)
実績	kg-CO ₂	62,176 (△21.5%)	52,122 (△19.8%)	49,090 (△23.7%)
達成：○ 不達：×		○	○	○
CO ₂ 排出量	単位	2025 年度	2026 年度	2027 年度
目標	kg-CO ₂	63,707 (△1%)	63,070 (△1%)	62,439 (△1%)
実績	kg-CO ₂	—	—	—

※ 実測値が目標値と隔たりがある為 2023 年より目標値を 65,000kg-CO₂ へ変更する

※ 目標値は 2023 年を基準年とし、それぞれ前年値△1%で設定

※ 購入電力の排出係数（調整後）は 0.435(2018)、0.334(2019)kg-CO₂/kWh

※ 購入電力の排出係数は国が公表する電気事業者(関西電力)の排出係数を使用し、排出量を比較するため 2020 年から 3 年間 0.334 に固定する

※ 目標値の削減率(%)は前年との比率であり、実績値の削減率(%)は同年目標値との比率である（以下の目標値、実績値の削減率も同様とする）

(2) 廃棄物の分別と削減

一般廃棄物	単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度
目標	kg	79 (△0.5%)	120 (基準年)	119 (△0.5%)
実績	kg	97 (+22.7%)	70 (△41.6%)	67.5 (△43.3%)
達成：○ 不達：×		×	○	○
一般廃棄物	単位	2025 年度	2026 年度	2027 年度
目標	kg	118 (△0.5%)	117 (△0.5%)	116 (△0.5%)
実績	kg	—	—	—

※ 実測値が目標値と隔たりがある為 2023 年より目標値を 120kg へ変更する

※ 目標値は 2023 年を基準年とし、それぞれ前年値△0.5%で設定

(3) 水使用量の節約

水使用量	単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度
目標	m ³	778 (△0.5%)	300 (基準年)	299 (△0.5%)
実績	m ³	279 (△64.1%)	263 (△12.3%)	250 (△16.4%)
達成：○ 不達：×		○	○	○
水使用量	単位	2025 年度	2026 年度	2027 年度
目標	m ³	298 (△0.5%)	297 (△0.5%)	296 (△0.5%)
実績	m ³	—	—	—

※ 実績値が目標値と隔たりがある為 2023 年より目標値を 300 m³へ変更する

※ 目標値は 2023 年を基準年とし、それぞれ前年値△0.5%で設定

(4) グリーン購入の推進

- ・ 環境負荷が小さいエコマーク付製品を選ぶようにする。(事務用品・電化製品・OA 機器等)

※ 2016 年 12 月エコタイヤ BS エコピア 4 本購入

※ 2016 年 6 月温水洗浄一体型便器を省電力節水仕様(パナソニックアラウーノ CH1301)と取替

※ 2020 年 10 月事務所和式トイレを洋式節水型 INAX の YBC-ZA10AH へ取替

(5) 使用電力量の削減

電力使用量	単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度
目標	kWh	19,676 (△1%)	13,000 (基準年)	12,870 (△1%)
実績	kWh	10,215 (△48.0%)	10518 (△19.1%)	10288 (△20%)
達成：○ 不達：×		○	○	○
電力使用量	単位	2025 年度	2026 年度	2027 年度
目標	kWh	12,742 (△1%)	12,615 (△1%)	12,489 (△1%)
実績	kWh	—	—	—

※ 実測値が目標値と隔たりがある為 2023 年より目標値を 13,000kWh へ変更する

※ 目標値は 2023 年を基準年とし、それぞれ前年値△1%で設定

※ 2011 年 8 月に太陽光発電システム設置 (パナソニック製 HIT230/5.52kW)

※ 2016 年 7 月に先機種より省エネのダイキンエコキュート EQS46SFV に取替

※ 2022 年 9 月本社 2 階エアコン省エネ型に交換 (ダイキン BC40J-WF)

(6) 化石燃料の削減

ガソリン	単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度
目標	L	1,980 (△1%)	1,961 (△1%)	1,942 (△1%)
実績	L	1,566 (△20.9%)	1,412 (△28.0%)	1,386 (△28.6%)
達成：○ 不達：×		○	○	○
ガソリン	単位	2025 年度	2026 年度	2027 年度
目標	L	1,923 (△1%)	1,904 (△1%)	1,885 (△1%)
実績	L	—	—	—

※ 2021 年より目標値を 2,000L へ変更する

軽油	単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度
目標	L	24,750 (△1%)	24,503 (△1%)	24,258 (△1%)
実績	L	21,368 (△13.7%)	17,571 (△28.3%)	16,449 (△32.2%)
達成：○ 不達：×		○	○	○
軽油	単位	2025 年度	2026 年度	2027 年度
目標	L	24,016 (△1%)	23,776 (△1%)	23,538 (△1%)
実績	L	—	—	—

※ 2021 年より目標値を 25,000L へ変更する

(7) 化学物質の削減

化学物質の使用はありません。

(8) 自らが提供するサービス

当社は工場内の輸送業務である。定期点検の着実な実施、適正な車輛整備の実施、エコドライブの励行などを行い、環境負荷低減につとめます。

5. 環境経営計画

(1) CO₂排出量の削減

- ・ 省電力化に努める。
- ・ フォークリフト、トラック、社用車の燃料削減に努める。
- ・ 低燃費車両への代替え。

(2) 廃棄物の分別と削減

- ・ ごみの分別。(可燃ゴミ、プラスチック、ガラス、金属等の完全分別)
- ・ 使用済コピー用紙の裏面再利用、メモ化。使用済封筒の再利用化。
- ・ ファックス用紙の低減、およびメール通信の推進。
- ・ 電子保存化を進め、紙の使用量を削減する。

(3) 水使用量の節約

- ・ 水質資源の削減。
- ・ 節水ステッカーを貼付する等して、一人一人の意識向上を目指す。
- ・ 節水トイレや自動水栓の設置。(2020 年 10 月本社節水型トイレに交換)

(4) グリーン購入の推進

- ・ 環境負荷が小さいエコマーク付製品を選ぶようにする。
(エコカー対象車両・エコタイヤ・事務用品・電化製品・OA機器等)

(5) 使用電力量の削減

- ・ 電灯、冷暖房の使用は、必要最小限度に行い、設定温度にも気をつける。
- ・ 事務所、車庫等、昼休みは電気を消す。
- ・ 不必要なスイッチを必ず切るように意識付けを行い、パトロールにてフォローする。
- ・ 事務所省電力エアコンへの交換。(2012 年 6 月交換)
- ・ 事務所 2 階省電力エアコンへの交換。(2022 年 9 月交換)

(6) 化石燃料の削減

- ・ フォークリフト、トラック、社用車の燃料削減に努める。
(アイドリングストップの励行、急加速の禁止、早めのギアシフトアップ、経済速度遵守)
- ・ 原子力発電所再稼働による原発部材(航空機部材の代替)の輸送量確保。
- ・ 将来技術(電気・H2 自動車)の実用化による CO₂ 削減。

(7) 化学物質の削減

化学物質の使用はありません。

(8) 自らが提供するサービス

当社は工場内の輸送業務である。定期点検の着実な実施、適正な車輛整備の実施、エコドライブの励行などを行い、環境負荷低減につとめます。

6. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

(1) CO₂排出量の削減

2024 年の CO₂ 排出量は目標達成。

2024 年の総輸送量は 2023 年に比べ増加しているが、エコドライブ（アイドリングストップ・エアコンの適切な使用等）の浸透により稼働率の増加を補い、化石燃料の消費量が減少している。

今後も、さらなるエコ運転等で CO₂ 排出量の削減に努めたい。

(2) 廃棄物の分別と削減

2024 年廃棄物の分別と削減も目標達成。

2023 年 2024 年共に長期保存書類廃却があまり進まなかった為、2023 年に設定しなおした新しい目標値との差は大きいですが、帳票類の電子保存化を引き続き実施する為にそのまま継続する。ゴミの分別や再利用化も引き続き実施。

2025 年もペーパーレスを推し進め、電子保存化に努め、ゴミの分別を厳格にして紙類削減を推し進めたい。

(3) 水使用量の節約

- ・ 2016 年 6 月に 2 階温水洗浄一体型便器を省電力節水仕様（パナソニックアラウノ CH1301）と取替。
- ・ 同時に自動水栓も設置。
- ・ 2020 年 10 月事務所トイレを節水仕様（INAX YBC-ZA10AH）と取替。
- ・ 2021～2022 年中に住居人が減少した為、2023 年を基準年として目標値を変更。

2024 年の実績値も目標達成。

2025 年も節水をお願いし、用水使用量削減に努めます。

(4) グリーン購入の推進

- ・ 2013 年 11 月グリーン購入法適合デスクマットと LED 照明購入。
- ・ 2016 年 12 月エコタイヤ 4 本購入。

(5) 使用電力量の削減

- ・ 2011 年 8 月に太陽光発電システム導入。（パナソニック製 H I T 230／5.52kW）
- ・ 2016 年 7 月により省エネのダイキンエコキュート EQS46SFV に取替。
- ・ 2021 年 9 月本社 2 階エアコン省エネ型に交換（ダイキン BC40J-WF）
- ・ 2023 年住居人の減少もあり目標値と実績値との隔たりがある為を基準年として目標値を変更。

2024 年使用電力量の削減も目標達成。

住居人の節電意識の高さ努力により使用電力量は目標値内で推移。

2025 年も、電灯や冷暖房の細かな調整を更に推し進め使用電力量削減に努めたい。

(6) 化石燃料の削減

2024 年の化石燃料の削減も目標達成。

2023 年と比べ総輸送量は増加しているが、上記 CO2 排出量の項目でも記載しているように従業員の皆さんのエコドライブ（アイドリングストップ・エアコンの適切な使用等）への取り組みにより化石燃料の消費量は減少。

これからも、さらなるエコ運転に努め、化石燃料の削減を推し進めたい。

(7) 化学物質の削減

化学物質の使用はありません。

(8) 自らが提供するサービス

当社は工場内の輸送業務である。定期点検の着実な実施、適正な車輛整備の実施、エコドライブの励行などを行い、環境負荷低減につとめます。

(9) 次回の環境活動レポート作成時期

2026 年 3 月 1 日

7. 環境関連法への違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法令もしくは法規は次の通りである。

2025 年 3 月 1 日

最終改正日	法規名	該当する項目	評価
2022 年 4 月 1 日	廃棄物処理法	一般廃棄物の排出（顧客の廃棄方法指示に従う） 紙類全般	○
2011 年 3 月 25 日	自動車 Nox・PM 法	対象自動車の車検・定期点検 （Nox・PM は車検事業者が実施） トラック・フォークリフト・乗用車	○
2016 年 6 月 30 日	自動車リサイクル法	当社所有自動車の適正廃車（業者に廃車依頼） トラック・フォークリフト・乗用車	○
2022 年 4 月 1 日	大気汚染防止法	貨物自動車の点検（始業前点検で排気ガスも確認） トラック	○
2019 年 10 月 7 日	兵庫県環境の保全と創造に関する条例	対象自動車の車検・定期点検 トラック	○

当社の企業活動に伴い適用される主なる環境関連法規等は、上記の通りです。

環境管理責任者が中心となり法規の順守状況についてチェックを行い、現在環境関連法規への違反はありません。また、関係当局よりの違反等の指摘は過去 3 年間ありません。

同様に、近隣住民からの指摘、苦情、訴訟は一件もございません。

8. 代表者による全体の評価と見直し指示

2025 年 3 月 1 日

代表者 新田 茂

No	取組内容	取組評価と見直し指示
1	環境目標の達成状況	○ 2011 年 8 月の太陽光発電システム設置後、人数増の時も電力量の増加阻止が計られて来た。 ⇒ 太陽光発電に伴い使用電力量すなわち CO2 排出の減少にも貢献出来、良い結果が出ている。ただ、天候による影響が大きい。新しいエコキュートやエアコンも節電に寄与している。地球温暖化による気温上昇で冬季暖房使用量の減少も考えられる。 ○ 化石燃料に於けるガソリン・軽油等に関して、様々なエコ運転等の教育を実施している。2024 年は 2023 年と比べ総輸送量では増加に転じたが、個々のエコドライブへの取り組みにより、化石燃料使用量は少なくなった。 ⇒ 2025 年も効率的な運搬と徹底的なエコ運転により、化石燃料の減少に繋がります。 ○ 水の使用量は概ね良好。廃棄物はデータの P C への取込（電子保存）でペーパーレス化を今後も推し進める。 ⇒ 今後も知恵を出して削減に努めたい。
2	環境経営システム全般	○ EA21 への取組み時から、我々企業が自然環境の保全向上の為に、積極的に環境問題に取り組まなければならない事等を、安全衛生教育と共に社内で教育しており、環境意識も高いと思われる。 ⇒ これからも環境意識が低下しないよう取組みます。
3	環境関連法規の遵守状況及び外部からの苦情・要望	○ 現在環境関連法規への違反は無く、関係当局ならびに近隣住民からの指摘・苦情・訴訟等も、一件も無し。 ⇒ これからも遵法精神に基づき地域と自然の共生社会に努めます。

環境経営方針

変更の必要性

☐あり

☒なし

環境経営目標、環境経営計画

変更の必要性

☐あり

☒なし

実施体制

変更の必要性

☐あり

☒なし